学校番号	1302

令和８年度　理科

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	改訂　科学と人間生活(東京書籍)						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生物や地学、物理、化学はそれぞれ別個のものではなく、自然現象を理解するためにはそれらを組み合わせて考えることが大切です。日常生活で実際に使用されているような、身近な科学的な事象を考え、知識と経験がリンクするような授業を進めます。自然科学に親しみ、身近な疑問や現象を自身で探求、考察し、科学的な認識を持てるよう、授業に取り組んでください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
自然と人間生活とのかかわり及び科学技術と人間生活のかかわりについての知識を身につける。
【思考力、判断力・表現力等】
日常を取り巻く自然現象や科学技術を、科学的な見方で思考し、適切な形で表現できるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】
授業目標等でふれる、日常に関わる基礎的な科学知識に興味・関心をもって、授業に参加できるようにする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・自然現象や科学技術を探究、考察する際に必要となる基本的な知識を身につけているか。 ・自然現象や科学技術を科学的に考察する際、正しい手順で観察や実験が行えるか。	・興味をもった自然現象や科学技術を科学的に探究、考察することができるか。 ・考察や実験に必要な知識を自身で検索できるか。	・日常生活において目にする自然現象や科学技術に興味を持ち、自ら進んで疑問を解決しようとするか。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	生命の科学	植物の生育と光 光シグナルと生物 人の視覚と光 さまざまな微生物 微生物と人間生活の関わり	a: 植物の生育や生物の光りへの反応の至近要因について理解する。 b: 光条件と植物の成長や光へ反応する生物の究極要因について考察できる。 c: 身近な農作物の栽培と光条件の関係や光への生物の反応に興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 観察
2学期	物質の科学	金属 プラスチック 資源の再利用 衣料 食品 目に見える光りの世界 光りの進み方とその基本性質 見えない光りとその応用 熱とは何か 熱と人間生活	a: 物質構造とその性質の関係性を理解する。 b: 身の回りの物質の性質と利用法について考察できる。 c: 身近に存在する物質の性質とその利用について興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 観察
3学期	宇宙や地球の科学	天体が刻む時 太陽系の構造 太陽が動かす大気と水 身の回りの景観の成り立ち 自然災害と人間	a: 天体や自然景観の成り立ちや運動を理解する。 b: 天体や自然景観の観察からその仕組みついて考察できる。 c: 身近な天文現象や天災に興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度